

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 453 回 好況よし、不況なおよし ~ 年頭挨拶に代えて...

2012 . 1.1



新年明けまして、おめでとうございます。

本年も宜しく願い申し上げます。

古代マヤ文明は、2012年に世界が終わりを迎えると「予言」した。
いよいよその年の幕開けである。

今年は3月に**ロシア**、5月**フランス**、11月**アメリカ**、そして12月に**韓国**で大統領選が行われ、**台湾**も総統選が近々予定されている(1月)。**中国**(秋)ではポスト胡錦濤体制が始動し、**北朝鮮**の金正恩(キムジョンウン)後継者問題も安定していない。**欧州**はソブリン危機の不透明感が晴れず、民主化の波を受けた**中東**は政治的動揺が続き、経済の悪化は世界各地でデモなどの混乱を引き起こす可能性がある。

足元では、ユーロをめぐる不安が根強く、核開発を続ける**イラン**を**イスラエル**が軍事攻撃するとの懸念も残ったままだ。

混迷続く世界情勢は、今年になって更に、助長されるかも知れない。

リーマンショックから3年以上が過ぎたが、食品価格の上昇から先進国の景気悪化まで、2011年は経済的問題が政治家たちの話題の中心だった。

経済がさらに悪化すれば、国内政治でも国際政治でも、不透明感や膠着(こうちやく)感、衝突や対立が深まることは避けられないだろう。

世界終末論は別にしても、今年は恐らく去年と同じぐらい「大荒れの年」になりそうだ。

でも、月並みな言葉だが、「**大変な時こそ、チャンスだ**」と思うようにした。

チャンスというものは、多くの場合、きつい仕事に姿を変えてやってくる。

だから、ほとんどの人はそれと気づかないし、むしろ逃げてしまう。

避けて通るから、同じことの繰り返し。同じことばかりやっていると、変化はない。

だから当然チャンスもない。嫌な仕事 came 時は避けたくるけど、やってみると、その結果がよかったりするものだ。それが「見えないチャンス」なのかもしれない。

まさにそうだ。

ピンチになってこそ、問題が明らかに見えてくる。

その明らかになった問題进行处理する過程の中に、初めて遭遇するチャンスがある。

故に、ピンチはチャンスに間違いはない。

逃げ出したいくらいの大トラブルの時こそ、誠意を持ってしっかり対応すれば信頼を得られて、その結果チャンスになると思っている。

「好況よし、不況なおよし」

とは、経営の神様と称される故**松下幸之助**氏の言葉だ。

お金もない、人脈もない、権力もない、それが今の、我々の実態だ。

だからこそ、チャンスなのだ**と幸之助翁は**言っている。

お金もない、力もない、人脈もない、だったら知恵を使ってこれから、一つずつ、それらを作っていけば良いのだと。

あの**豊臣秀吉**は、ピンチが訪れるたびに、こう言った。

「さあ、面白くなってきたゾ...」

太閤**秀吉**はその時、...ピンチの時は相手も苦しい...ことを知っていた。

ピンチだと感じることも、チャンスだと感じることも、全て自分次第。つまり、発想や考え方によって、ピンチをチャンスに変えることができるということだ**と思う。**

もちろん、ピンチは怖い。誰だって不安になる。

だからこそ、**ピンチはチャンスに変えることができるんだ**ということ、

今年のMISSIONにしたい。

ピンチの時こそ果敢な変化を恐れ**ない**。つまり、「**負けない人の思考**」を身につけ実践していく、これが2012年のMISSIONである。

不況だ、リスクだ、外部環境の悪化だと、ピンチはいくつでもやってくる。

そんなものに負けないために情報を集め、スキルを磨き、ネットワークを強化し、スピーディな行動を絶やさ**ない**……その強い信念と強固な精神力をもち、覚悟を決めてやり抜く意思！つまり、**最大の「敵」は自分自身**である。

自分を一番成長させるのはピンチ(修羅場)であること。

ピンチから逃げずに正面から向き合った人だけが、大きく成長するということ。

「**好況よし、不況なおよし**」の言葉が教えてくれた。

なんとも稚拙なコラムを辛抱強く読んでいただき、感謝申し上げます。

2012年が皆様にとって「良き転機之年」、昇り龍の如き、力強き成長の辰年でありますようご祈念申し上げます、年頭の挨拶に代えさせていただきます。

飯島 賢二